

## 諸厄利亞語事始

● 浅原義雄

### はじめに

James by the grace of Almightye God, kinge of Greate Brittain, Fraunce and Ireland, defendor of the Christian faith, etc., to the highe and mightie Prince the Emperour of Japan etc : greetinge.

Most highe and mightie Prince,

As there is nothinge which increaseth more the glorie and dignitie of Soueraigne Princes vpon earth then to extend their renowne vnto farr discident Nations : Soe, haueing vnderstode of late yeares from some of our loueing Subjectes that haue traded into diuers Countries neere adioyneinge vnto yours, of the reputacion and greatnes of your power and dominion : Wee haue incurradged our said subjectes to vndertake a Voyadge into your Countrey, aswell to sollicit your freindshipp and Amity with vs as to enterchange such Comodities of each others Countreys as may be most of vse the one to the other, beinge nothinge doubtfull but such will be your princelie magnanimitie and disposition as to be readie to ymbrace this our desier, and not onlie to receiue our people with your accustomed benignitie and favor butt, for their better encouragment, to affourd them your Royall proteccion for the setlinge of a Factorie there with such securitie and libertie of Commerce as shall be most convenient for the aduancement of the mutuall profitt and Comoditie of each others Subjectes ; wherein, for our parte, wee doe willinglie offer ourselues and the libertie of our kingdomcs and Countres whensoever any of your Subjectes shall vndertake to haue comunicacion with vs. And soe wee pray Almightye God to blesse and prosper you and to make you victorious against your Enemies.

From our Pallace at Westminster this [blank] of January in the Eight yeare of our Reigene of Greate Brittain, Fraunce and Ireland.

ぜめし帝王書状之趣者、天道之御影により、おふぶりたんや國、ふらんず國、  
ゑらんだ國 [アイルランド]、これ三ヶ國之帝王ニ、此十一年以來成申候、然  
者、日本之將軍様御威光廣大之通、我國江慥ニ相聞え候、爲其かびたん、ぜね  
らん、じゆわん、さいりす、此等ヲ爲名代、日本將軍様に、御禮爲可申、渡海  
させ申候、如此申通ニ罷成候へハ、互之國之様子、廣大ニ流通仕、我國之満足  
之所不淺候、於向後ハ、毎年商船あまた渡海させ、双方商人被爲入魂、互之望  
物商賞可被仰付候、其上日本將軍様御意之旨、於御懇情者、商人ヲ當國ニ残置、  
彌爾方懇和可被成候、然上ハ、我國へも、日本之商人ヲ、自由ニ呼入、日本之  
重寶之物ヲ調法させ、賣買可申付候、於此上ハ、いく久申通、日本へも、無心  
疎用し可申入候條、被爲其意得可被下候、以上、

大ぶりたんや國ノ王

居城ハおしめした [Westminster]

せめし帝王 [James]

れいきし [Rex]

日本將軍様

今此衆被參候國ハ、いがらたいら、又げれふろたんとも申候、いつれも、國  
ハ一つ、なハ二つ御座候、如此あんじ書付上申候、(注1)

上記の資料はウィリアム・アダムスが、イギリス国王ジェームス一世の親書  
を徳川家康に翻訳して差し出したものである。おそらくこれが日本最初の英語  
の翻訳と言っても間違いなからう。この訳文を見ると、“As there is noth-  
ing which increaseth more the glorie and dignitie of Souereigne Princes upon  
earth then to extend their renowne unto farr discident Nations:” の箇所  
の訳は完全に抜けているが、彼がいかに苦心して和訳したか、その奮闘努力  
が偲ばれる。Westminster の訳がどうして「居城ハおしめした」になるか  
は理解に苦しむところだが、ぜめし帝王 (James)、れいきし (Rex)、いがら  
たいら (England)、げれふろたん (Great Britain) の訳は秀逸であらう。

ここで、外国との交流が限定的ではあったにせよ、徳川時代に日本に於いて  
どのように英語に取り組んだか、辞書や語学書編集の視点から、そのごく初期  
における英語学習の過程を辿ってみよう。

## (1) ウィリアム・アダムス

ウィリアム・アダムスが日本に来航した経緯を略述すると、彼は1598年に5隻からなるオランダ東洋遠征船隊の1船リーフデ号の航海長として乗り組んだ。彼の船はマゼラン海峡を突破したが、太平洋に入って5隻とは暴風雨のため離れ離れとなり、1600年(慶長5年)4月29日、豊後の臼杵に漂着したのである。その後、江戸でヤン・ヨステンと共に徳川家康の顧問として仕えたアダムスは、外国使節との対面や外交交渉に際して通訳をするなどして幕府に様々な助言を与えた。彼は徳川家康に再三再四帰国を願い出たが、その要求は受け入れられなかった。代わりに家康は彼に対して相模の国三浦郡逸見村に二百五十石の領地を与え、イギリス本国に妻子がいるにもかかわらず日本人の女性と半ば強制的に結婚させた。

彼は、日本の歴史を決定的なものにした関ヶ原の戦いの年に来日し、20年後の1620年に57歳で没した。20年間に及ぶ日本における彼の生涯は、吉備真備等とともに遣唐使として中国の地を踏みながら、科挙に合格して才能を認められたがゆえに日本への帰国がかなわず、「天の原 ふりさけみれば 春日なる三笠の山に いでし月かも」と望郷の念を歌いながら、異国の地で72歳の生涯を終えた阿部仲麻呂の人生と似ていなくもない。何はともあれ、この国王親書の訳文は英学史上においても画期的な出来事であることは間違いない。

徳川時代初期に、イギリスはウィリアム・アダムスが徳川家康に厚遇されたのを契機に、日本との交易に本格的に乗り出す。アダムスの仲介でジョン・サリス (John Saris) は、平戸から駿府にいる家康に会いに行つて上記のジェームス一世の国書を差し出すのである。リチャード・コックス (Richard Cocks) を商館長として平戸に商館を置いて、イギリスは日本と貿易に本腰を入れる。コックスの書いた『日記』は、徳川時代の初期に戦国時代の余波が残る日本の世情を知る貴重な資料ともなっている。

December 23 (1615). This day a boy a boy of 16 yeares ould was cut in peeces for stealing a littell boate and carrying it to an other hand. I sent to the kyng to beg his lyfe, which he granted me, and in the meane tyme sent a man after the execusoner to stay a lyttell; but he would not, but put hym to death before the pardon came, cuting hym in many mammocks to try their cattans (JJ) upon hym. (注2)

16歳の少年が、小舟を盗んで他人に売っただけの罪でずたずたに切られて処刑された事実は、現代の時代には考えられないほどの厳罰で臨んだ戦国時代の遺風が、江戸時代初期にはまだ強く残っていることが窺い知れる。

July 24 (1616). Sangero Samme found a woman of his yisterday playing fake with an other Japon, for which he presently cut her in peeces with his owne hands, and, after, the man was brought to the place of execution and cutt in peeces; and his brother had the lock of haire on his head cut aff e by the hangman with the same cattan which cut his brother in peecese. (注3)

この資料でも、城主の側室が人に嘘をついただけで城主自らが処罰し、あまつさえその一族郎党までも処刑した大名の残虐ぶりが克明に記されており、西洋人の目には信じられない光景に見えたかも知れない。

ウィリアム・アダムスの心血を注いだ努力によって開かれた日英の交流は、徳川家康とウィリアム・アダムスの死によって尻すぼみ状態に陥る。それに拍車をかけたのは2代将軍秀忠と、3代将軍家光の鎖国政策であろう。1637年(寛永14年)の島原の乱、1639年(寛永16年)のポルトガル船来航禁止、1641年(寛永18年)のオランダ商館長崎出島の設置を経て、徳川幕府の鎖国体制は確立された。これによってオランダ一国のみが日本との貿易を独占する結果となったので、イギリスは日本との交易から撤退を余儀なくされた。

## (2) フェートン号事件

英語が重要な意味をもつようになるのは、それから2百年ほどたった19世紀初頭、文化年間に入ってからである。1808年(文化5年)8月15日の朝早く、長崎港の沖合に、オランダの国旗を掲げた一隻の異国船が姿を現した。ところが旗合せのときになって、検使の船に同乗していた二人の商館員が異国船に連れ去られてしまった。この異国船は実はイギリスの軍艦フェートン号(the Phaeton)で、バタビアから長崎へ向かったオランダ船を掌捕するためにやってきたのである。このときにイギリス人が出島を襲ってくるという噂が流れ、商館員たちは朱印状を抱えて奉行所に避難したので、長崎の町は大混乱に陥った。フェートン号の艦長は、人質と交換に薪水、食糧を要求する手紙をよこした。手紙は2通で、一通はオランダ語で、他の一通は英語で書かれていた。長崎奉

行松平図書頭は、フェートン号を焼き打ちしようとしたが、長崎の警護にあたっていた佐賀藩の兵が手薄でどうすることもできず、よんどころなく薪水、米、野菜などを与えた。フェートン号はそれを受け取ると、人質二人を送り返して長崎港を去って行った。奉行松平図書頭は、この事件の責任をとって切腹して命を絶った。佐賀藩の重臣も数名切腹し、鍋島侯は百日の閉門を申し渡された。これがいわゆるフェートン号事件である。オランダ商館長は、フェートン号の来航はロシアの依頼でイギリスが長崎の防備を探るために来たと幕府に虚偽の報告をした。これは日本との独占貿易権を手放したくないので、オランダがフランスに併合された事実を隠すための苦し紛れの嘘であった。その報告を信じた幕府は、オランダ通辞にロシア語と英語の学習を急遽命じた。フェートン号事件に衝撃を受けた幕府の狼狽心が、日本における英語学習の契機となったのは歴史の綾であろう。和蘭通詞が和蘭語以外に、他の欧米語を学ぶのは、これが最初ではない。幕府が通辞にロシア語と英語の欧米語学習を命じる前年の1808年（文化5年）2月にフランス語の学習を命じている。その理由は前年ロシアの軍艦がエトロフ、クナシリを襲ったとき、フランス語で書かれた脅迫状を残していったからである。これで日本は公式に英語、ロシア語、フランス語の学修を始めたのである。

### （3）日本最初の英学書

ロシア語と英語の習得を命じられたオランダ通詞の氏名は、『長崎志続篇』1809年（文化6年）2月25日の項で、次のように記されている。

阿蘭陀通詞共被召出、魯西亜諸厄利亜文字言語修行稽古ノ儀被命、各名左二記ス

大通詞見習  
本木庄左衛門  
小通詞  
末永甚左衛門  
同格  
馬場為八郎

小通詞並 西  
西 吉右衛門  
同末席  
吉雄忠次郎  
稽古通詞為八郎倅  
馬場佐十郎（注4）

1809年(文化六年)6月には、この6名の通詞のほかに、オランダ小通詞「岩瀬弥十郎」、同末席「吉雄六次郎(権之助)」が加わり、ついで8月にはさらに小通詞並「中山得十郎(作三郎)」、同格「石橋助十郎」、同末席「名村茂三郎」、稽古通詞「志筑竜助」、同「茂土岐次郎」、同「本木庄八郎(徳見昌八郎)」等の6名の通詞が英語、ロシア語の学習を命ぜられた。日本で英語の学んだ者は総勢14名ということになる。問題は英語を教える教師である。オランダ商館荷倉役ヤン・コック・ブロムホフ(Jan Cock Blomhoff)が英語の先生に任命された。英語、ドイツ語、オランダ語はゲルマン語族に属するから、オランダ人が英語を教えるのはそれほど難しいことではないだろう。しかし、オランダ語に慣れ親しんだ人間が、英語を学習すれば発音は全く別物であるから、どうしてもオランダ語と混同するのも当然であろう。通詞たちの血のにじむような英語学習の努力の成果として、1811年(文化8年)9月に、本木庄左衛門が『諳厄利亞言語和解』(内題『諳厄利亞興学小筈』)を奉行所に差し出した。その序文で編者の本木庄左衛門は、『興学小筈』が成立するまでの英語学習の苦勞を次のように述べている。

### 諸厄利亞興学小筈凡例

嚮 文化己巳春諳厄利亞文字言語修學の命令を下され同年秋渡來の和蘭人等彼の國語ニ委きものを擢擢せられ遂に加比丹の副官翁鐸尔ヘトルく官名)楊骨郭ヤンコツク 歩陸プロ無忽梓ムホフと云ふ蘭人をして在留せしめ彼の國語を教授し吾黨の譯家新に其業を發らき習學すべきの旨

嚴命あり正榮セフヤクをしてこれか前茅たらしめらる謹而命を奉し試に譯家小少の子弟六七輩をして彼を師とし其業を受けしむるに積年馴習したる和蘭の訓譯と違ひ絶域數萬里の國語を創業することにして音韻言語風俗古事體愈々異なれハ愈々曉得し難く若年の強憶ありといへとも先務とする蘭學理會の未熟なれハ彼に索め質問するに力ラなし適々蘭學習熟のものをしてまた容易に其要領を得難くしかりといへとも正榮譯家に生れなから

命を奉して其難きを難とし自から限り廢するときは國家の裨益にならざる事を憫へ日夜尋思專精するの餘り家學傳來の古書を披驗しつるに五十年前先人勸學の頃ひ寫藏せし數本を得たり此書と蘭の學語を集成したる書にて一傍に和蘭語一傍に諳厄利亞語と兩側に細寫したるものなりつらつら量察するに昔年齋來り

し奇書にして蘭人これを授けず其頃素より諳厄利亞に通したる人なけれども蘭語習學の次に鏤版のまゝに傳寫して原本は蘭人に返したるものなるべし其書を披閱するに字形は和蘭に大同小異なりといへとも更に東西を辨せずして誠二暗夜を獨行するか如く一句片言分明ならず幸に此書を携へて師とする蘭人に質問し尚彼か藏する書とを修業する事にそなりぬ正榮素より短才謏劣にして此學を首唱して成業するに至らされとも國家昌平

聖恩の萬分の一をも報し奉らん事を欲して我方の平假名四十八字イロハと同じき彼の國の<sup>エビシ</sup>ABCの音擇呼法を習ひ類語言辭に至ること恰も十歳の童子に等し今月を累に年を積し研講究の功にや僅に彼れが藩籬を窺ふ事にハなりぬ然りといへとも晩學老羸にして此業を精熟する事を得されハ此編を譯述し吾黨の童蒙に授け熟讀暗誦せしめ尚口授教育するにおゐてハ卒に大業成途して其功必大なる基本の一助ともならんことを冀ふのミ (注5)

「積年馴習したる和蘭の訓譯と違ひ絶域数萬里の國語を創業すること」は、英語に関する辞書・参考書・視聴覚教材が満ちあふれている現代では想像もつかない難事業であつたであろう。

当時、和蘭通詞の英語の発音は、どの程度のもであつたのだろうか。卷之一「凡例・文字呼法・類語大凡(乾坤、時候、数量の部)」で、アルファベットの読み方が示されている。

### 文字呼法

エ ビ シ デイ イ エフ ゼ エーチ アエ ジー ケ エル エム エン ヨー ビ キヨ アル エス テイ エ  
 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U  
 ウヒ ドブヨ エキス ウワイイチセツト  
 V W X Y Z

右二十六文字を和蘭にABCと云ひ我邦平假名四十八字をイロハと云ふが如く諳厄利亞にてこれを<sup>アルハベツト</sup>ALPHABETと云ふ彼の国字の体制は和蘭に等しといへども呼法音韻大に異り字形もまた真行草あるが如く異体多しといへども其一体を拳ぐ呼法の大要を識す

発音は、G「ゼ」、O「ヨー」、Q「キヨ」、W「ドブヨ」のようなおかしなものもあるが、D「ディ」、T「ティ」のように現代風に読まれているものもある。

続いて、卷之二「類語大凡(官位、人倫、支体、気形之部)」、卷之三「器財、服食、生植、言辞之部)」、卷之四・五(平用成語第一・第二)、卷之六・七・

八・九・十（学語集成第一～大三十六、大尾）である。「類語大凡」とは、語彙のことで訳2400語あり、原則として各語に一つずつ訳語がつけられ、発音が朱書きされている。いくつかの例をあげてみよう。

レイト  
light  
アカデミ  
academy  
ホール  
hall  
レデイ  
lady  
ヒュスベント  
husband  
モンストル  
monster  
デスク  
desk  
メツチユ  
match  
ミンセツト ミート  
minced meat  
メルン  
melon  
ロフ  
love  
コワルデイス  
cowardice  
ウラルト  
word  
アルゲブレー  
algebra

ヒナタ  
明  
ガクモンショ  
学校  
ザシキ  
演敷  
姫  
サツト  
丈夫  
カタワ  
跨人  
ブンゴ  
書籍  
ヒナワ  
火縄  
カマボコ  
肉餠  
ワクワウリ  
甜瓜  
愛  
ツタナシ  
拙  
言語  
以文字計物之学  
〈如天元術者〉

ゲレス  
glass  
スクール  
school  
ケムネイ  
chimney  
スレーフ  
slave  
テイラント  
tyrant  
ゲイント  
giant  
キユツブ  
cup  
ヘント ケル シーフ  
hant ker chief  
ジュイス  
juice  
ランドルステンディング  
understanding  
ミント  
mind  
ペーシンス  
patience  
エンギリス ランゲユース  
English language  
ジヨメテイリー  
geometry

ビイドロ  
玻璃  
テラ  
書塾  
ケムリダシ  
烟窓  
クロボウ  
鬼奴  
強盜  
セイタカ  
偉丈夫  
サケノミチヨク  
酒鐘  
ハナフキ  
湊巾  
キノシル  
木汁  
智  
コロコバセ  
意  
コラユル  
忍  
諳厄利亜  
町問術〈地理〉(注10)

「平用成語」では、日常会話に用いられる短文が集められている。

アイウイス ユー エグート デイ  
i wish you a good day.

我汝に良昼を祝す〈平成人ニ相見へて先つ云ふ例言也〉  
ホウド ユード デイス モルニン  
how do you do this morning?

汝今朝如何済るや  
ワイド ユール スピーキ エンギリス ト ミ  
why do you speak English to me?

汝何故に我に向て諳厄利亜語を云ふや  
ウエール ヘヒ ユービユツトユール ゲルンムル  
where have you put your grammar?

汝が学語の書何処にあるや  
ワット デイアロージュ ユーヘヒ ユーリート  
what dialogue have you read?

汝ハ如何なる学語集成を読みしや



アイド ノツト ヲンドルス テン ユー  
i do not understand you.

我は汝か言ふ夏を解せず  
デイス クロツク グース トー スロー  
this clock goes too slow.

此自鳴鐘輪廻る夏甚遅し  
レツト ホス ゴ エント ワーク イン デ ゲル テン  
Let us go and walk in the garden.

我等園に往て逍遙せん  
イトイス ネイ デル コールド ノル ホツト  
'i is neither Cold nor hot.

寒からず暑からず  
ウイル ユー ゴ イ エ グート ブツクス イン エンギリス  
will you buy a good books in English?

汝は諳厄利亞語の書を求る夏を欲すや (注11)

例文の大部分は小文字で始まり、疑問符などの句読点も統一されていないし、綴字や文法的な誤りもみられる。

「学語集成」は対話集 (Dialogues) で36の章に分れ、「兄弟姉妹之問答」「諳厄利亞人兩人の間答」「貴婦人兩人の間答」等、対話者の種類によって区分されている。

フロム ウ エンス コ ム ユー  
from whence come you?

汝ハ何方より来りたるや  
アイ コ ム フロム ロンドン  
i come from London

我は竜動〈諳厄利亞の王都〉より来りたり  
アイヘヒ ノツト リート デ ゲゼツト  
i have not read the gazette.

我は巷説紀を読む

〈西洋にては月々巷説流言を集め上木して四方に布く是をゲゼツトといふ巷説紀と訳す〉

what country man are you?

何地の人なるや

i am of york.

我はヨルク〈諳厄利亞の地名〉の産なり  
ホウ ド ユー レイキヲウルクンテイリ  
how do you like our country?

我国を如何思ふや  
イトイス デ ヘイネストクンテイリ イン デ ウヲル  
'T is the finest country in the world.

世界の尤美麗なる国なり  
アイド ノット ヲンドルステン デユツツ  
i do not understand dutch.

我は独乙都語を解せずく独乙都は和蘭の総称なり)  
イス デ エンギリス メストル ゴン  
is the English master gone?

諳厄利亜の師は最早去られしや  
ノー ヒ イスノット ゴン エツト  
No, he is not gone yet.

否彼は未去らず  
テーキ ユール プレース  
Take your place.

座に着れよ  
レツトユス ゴート デイリンキ  
let us go to drink.

我等往て飲酒せん  
インワツト ユニヘルシテ ヲフ ホルレント ヘ ヒ ユー ステユデイト  
in what university of Holland have you studied?

汝ハ和蘭学を如何なる学校に於て学ひたるや  
アイヘ ヒ ステユデイトアト レイデン  
i have studied at Leiden.

我レイデンに於て学びたり  
エント ユー シル ウエール ヘ ヒ ユー ステユデイト  
and you sir, Where have you studied?

而して汝は何処にて脩学したるや  
アトヲクスホルト  
at oxford.

ヲクスホルト〈地名〉にて  
ウイツチ ヲフ ボース ユニヘルシテイスイス デ ヘイネスト  
Which of both universities is the finest?

此両学校の内何れか宜しきや (注12)

“gazette”「新聞」など、当時の日本にはない言葉の概念も見事に表現しているのは驚きである。それに最上級などの文法項目もよく理解している。

幕府は『興学小筈』の成果を見て、諳厄利亜語学習の一層の進化を求めべく通詞たちに英和辞書の編集を命じた。今回も本木が中心となり、榎林栄左衛門、吉雄権之助、馬場為八郎、末永甚左衛門たちが、ヤン・コックの指導を受けて編集に着手し、3年後の1814年(文化11年)6月に完成した。これが日本最初の英和辞典ともいふべき『諳厄利亜語林大成』(15巻)である。『語林大成』の収録語数は約6千語以上あり、冒頭の「凡例」では、8品詞が解説されている。

1 諳厄利亜は詞品を区別して八種となす是を訳すれば則

静詞 代名詞 動詞 動静詞 形動詞 連続詞 所在詞 歎息詞 (注13)

今日の文法用語に当てはめると静詞は名詞・形容詞、動静詞は現在分詞・動名詞、形動詞は副詞、連続詞は接続詞、所在詞は前置詞、嘆息詞は感嘆詞になる。「凡例」の最後の部分では、『語林大成』の編集方針が述べられている。

- 1 一語を訳する甚易きに似て反て難きものなり其故は一語を以て其意味を尽す尙能はざるものあり況や又我輩膚浅本より漢土の字義に暗し故を以て対字専漢語をもってせんとする時は自ら其本来の面目を失するに至る尙あり今是を悉く俚俗の語をもってする時は鄙陋煩雑にして甚醜きが如くに嫌あり故に其ノ当否は知らずと雖ども訳字ハ必漢字を以てし而して其際間々或は俚俗の語を下に記して其面目を失はざらしめんとす是皆已む事を得ざるの一端より出るなり (注14)

編集方針を要約すれば、英単語にオランダ語を加えて発音はカタカナを付け、訳語は漢字でつけ、必要に応じて仮名で意味を明白にしたのである。『語林大成』は『興学小笈』よりも内容が質的にも向上して、単語もアルファベット順に配列され、訳語も二つ以上与えられているケースが多い。両者を比較してみよう。

アルレーダイ already	『興学』	古
	『大成』	モハヤ 業已 又往昔 又古へ
シセテイ city	『興学』	チマタ 街
	『大成』	チマタ 街 又市中
パスボルト passport	『興学』	ユルシヂヤウ 赦書
パスボルト pass port	『大成』	オーライテガタ 往來文 赦書〈ユルシヂヤウ〉
オピニオン opinion	『興学』	知覚
	『大成』	知覚 覚触識得〈ゾンジヨリ〉
デイリゼン diligent	『興学』	勉強
	『大成』	勉強ナル (注15)

“pass port”の意味なども、「ユルシジャウ」から「オーライテガタ」とより現代的な感覚の言葉に変化している。『語林大成』は、『興学小笈』のスペルや発音の誤りを随所で訂正しており、収録されている語も、名詞が中心の『興学小笈』と違って、8品詞にわたっている。

ト ベ コ ム To become ブルツドル bladder	ウル ナル 獲ル又成又到着スル 膀胱 くシヤウベンブクロ	ビブル bible ト アトヘイス to advise	法教書 評スル く人ノ為ニ 論決スルノ議
エフヘキシ affection ヲベラ opela レーベラル アルト Libral art ハントソム Handson コロツク Clock ユンドルスドート understood プエテイリ poetry リユモウル Rumour テ The	ココロバセ コノミ ネンゴロ 意 又好 又懇 歌謡ノ劇場 七芸総称 美麗ナル 又妙ヘナル 鐘 又時 又時規 理会セリ くガテンセリ 詩歌学 く詩文 巷説 又風声 発声詞 又助字「ガ」「ヲ」両通ス (注16)	アフトル after リヘルテイ liberty リツブ Lip ヘル her キユルテン Curtain スイート ヘルト sweet heart シエンス science タツト That	後 又従ヒ 自有 又放縦 唇 ツパ 彼女 カノオンナ 蚊帳 カヤ 恋思女 くコイメ 学 ガク 其 くソノ

“bladder”という特殊な言葉が収録されているのは、蘭学が思想や宗教などの精神的なものを避けて医学等の実学を中心として翻訳した名残であろうか。

“libral art” (liberal art 「文芸」) 「七芸総称」や“libery” 「事有、放縦」は、現代でも十分に通ずる訳語となっている。本木庄左エ門が『諳厄利亜語林大成』の辞書編集に当たって、オランダ語とフランス語を参考にしたことは「諳厄利亜語林大成叙」でも窺い知れる。

諳厄利亜所有の言詞悉く纂集譯釋し傍ら参考するに和蘭の書を以てし猶其疑きものは拂郎察の語書を以て覆譯再訂し遂に翻して (注17)

#### (4) ラナルド・マクドナルド

真の意味で本格的な英語を教えたのは、ヤン・コック・ブロムホフでなくアメリカ人ラナルド・マクドナルド (Ranald MacDonald) であろう。彼はスコットランド人の父とネイティブ・アメリカンの母との間に生まれた混血児であ

った。どのような経緯でそのように信じたのかは理由は定かでないが、彼はネイティブ・アメリカンの祖先は日本人であると思い込んで、祖先の国日本に行こうとしてアメリカの捕鯨船に乗り込んだ。彼は捕鯨船から離れて一人で小舟に乗り難破を装って、1848(嘉永元)年7月1日に利尻島に上陸した。当時の慣例では外国人は全て長崎に送られたので、彼も松前の江差で幽閉された後に長崎奉行所で監禁された。半年間、大非庵の座敷牢において軟禁状態にあった中で、14人の和蘭通詞に英語を教えるのである。その教授法は発音矯正や語彙の解説であったようだ。特に興味深いのは、彼が日本人は文法が得意であると述べていることである。この傾向は現代まで延々と続いているのが興味深い。これは日本人の英語学習の宿痼となっているかもしれない。

Their habit was to read English to me: One at a time. My duty was to correct their pronunciation, and as best as I could in Japanese explain meaning, construction, etc. …

They are all well up in grammar, etc., especially Murayama; that is to say, they learned it readily from me. They were all very quick, and receptive. It was a pleasure to teach them. (注6)

この14人の中で特別に優秀だったのは上記に名前が出てくる森山栄之助で、マクドナルドの回想記によると長崎奉行との接見の際に森山栄之助が次のように述べたと記されている。

“You will see the Governor enter by that door, but you must not look at him but bow low.” (注7)

文法的には多少不自然であろうとも、現代の高校生でもとっさにこのような見事な英語を喋るかどうか疑問であろう。もっとも和蘭通詞が即席で英語を学んだのだから発音がオランダ語訛りの独特なものになるのはいたしかたがないことであろう。そのことは同じ回想録でマクドナルドが指摘している。

“His pronunciation was peculiar, but it was surprisingly in command of combinations of letters and syllables foreign to the Japanese tongue. (注8)

森山栄之助は、ペリー来航時に対米折衝の中心人物となるほどに英語に習熟するのである。彼と並んで幕末の開成所で最初の英語教官をした堀達之助は、日本最初の英和辞書『英和对訳袖珍辞書』を世に出す。この二人が傑出したマクドナルドの教え子ということになるだろうか。ラナルド・マクドナルドが蒔いた英語の種は、幕末から明治にかけての英学の勃興に大きな花を咲かせることとなるだろう。また、マクドナルドが聞き取った日本語の英字表記の筆稿も、その当時長崎で話されていた言葉を知る上でも貴重な資料となっている。その一例を挙げると次のようなものがある。

Waruka (悪か)	Bad	Youka (よか)	Good
Feto, Ftone (ふとん)	Large	Comaka (こまか)	Small
Fene Tajo (船大将)	Admiral	Kenshe (君子)	Gentleman
Musume and Gosokujo (娘、ご息女)	Daughter		
Shepak and Haara Kari (切腹、腹切)			
Sonomotoo Merucotowi (その許を見ることは) How do you do? (注9)			

## (5) 幕末の英語辞書

フェートン号事件後に始まった英語学習に拍車をかけたのは、1853年の浦賀へのペリー来航であろう。幕末に数多くの英学書が出版されるが、その中でも特筆される主要なものを挙げてみる。

### ①『諳厄利亜語忽兒朗土語集成』

文政年間に刊行されたとされるが、年代は定かでなく著者未詳である。日蘭英三カ国からなる英会話のパンフレットで、英米の鯨捕船とのトラブルを想定し、それに対応した例文を収録しているのが注目される。

近来鯨漁之船度々此国に來り薪水を乞へり、此船も漁船なるや  
エニ ヤールス シンス any years since come after fishing schips of other land to Jappan to obtain  
ヒ ス シ any fire wood an [d] オートル water; is fisher may not fisch.

日本近海にて異国の船鯨漁はならず  
アトセイ at sea of Jappan the foreigner may not fisch.

順風次第早く此処を出帆すべし

ユー ムスト エン

you must go way with first speedy wind. (注18)

## ②『三語便覧』

1854年（安政元年）発行された村上英俊の手になる日英仏蘭語辞書で、約3千4百語収録されている。英語とフランス語の発音は全てオランダ語に近いのは致し方がないところであろう。

ワカトノバラ 公子 シバイ 劇場 イエ 室屋	フランスコトバ 仏蘭西語 ゲンチル ホム メ gentilhomme コメ ジー comédie マイソン maison	エゲレスコトバ 英傑列語 ゲントレマン gentleman テートレ theater ホユセ house	ワランダコトバ 和蘭語 エデルマン edelman スコユウビュルグ schouwburg ホイス huis (注19)
---------------------------------------	---	---	---

## ③『英米対話捷徑』

1860年（安政6年）に中濱万次郎が書いた日本人による最初の英会話書である。彼は漂流民として数奇な運命をたどってアメリカで本格的に英語を学んだだけに、発音表記が多少改良されている。漢学の伝統に則った返り点方式の訳読法は、初心者の学習にはうってつけかも知れない。

善き 日でござる

グード デイシャア

Good day Sir.

いかが ござげん あなたさま ようござるか わたくし このほか ころよい

ハ ヲ ツウ ユウ ツーシャア

How do you do Sir ?

アイアム プロ テ ウエル

I am prttey well.

ありあ<sup>五</sup>あなたが ててごは いささか<sup>三</sup>こころよく<sup>四</sup>よりも<sup>一</sup>かれの すぎし この あさ<sup>一</sup>

イジユア ファザ エネセンキ ベ タ ザン ヒーウーシゼシ モー ネン

Is your father anything better than he was this morning? (注20)

## ④『ゑんぎりしことば』(万延元年、1860、清水卯三郎著)

1860年（万延元年）に、清水卯三郎が出したかな書きの英語の単語・会話集である。英文表記がないのは、庶民が外国人相手に商売するには言葉が通じれば文字は必要ないと判断したためだろうか。

なんぢは、さやうにのみ、いはるる。

このんで いふ そう

ユウ、プリースド、セイ、ソー (注21)

⑤『英和対訳袖珍辞書』

1862年(文久2年)に出版された堀達之助による日本初の印刷辞書で、H. Picard “A New Pocket Dictionary of the English and Dutch Languages, 1857”を底本にしており発音表記はない。この辞書は現在でも十分に通用するほどの立派な内容で、英語学習が日本で長足に進歩したことが読み取れる。

A, an, art. 不定冠辞ニシテ単称名詞ノ前ニ在テーツ又ハ或ルノ意ヲ示ス

So much a week. 一週ノ間

So much a head. 一人ダケ

A.B. (Abbrev. For Artium. Baccalaureus)

学校ニテ最初の官職ヲ得タル人

Aback, adv. 後ニ. 後ニ返リテ (注22)

⑥『和英語林集成』

1867年(慶応3年)に、美國平文ことジェイムス・C・ヘボンが横浜で出版した日本在住の外国人向け辞書で、日本語見出し語2万772語、英語見出し語1万30語からなる本格的な辞書である。幕末頃に使われていた日本語を知る上でも貴重な資料となっている。

BANTARO,	バンタロウ、番太郎、	n. An inferior street watchman.
KINCHAKKIRI,	キンチャクキリ、巾着切、	n. A cut-purse, a pickpocket.
KOMOSO,	コモソウ、虚無僧、	n. A kind of Buddhist religionist, who, when he goes out begging, dresses in white, wears a basket over his head and face, and plays on a flute.
MI-UKE,	ミウケ、贖身、	n. Redeeming a harlot, and de-



YASHI,

ヤシ、野師、

livering her from her engagement to her employer.

n. A class of persons, who by various tricks of jugglery attract persons in the street to buy secret medicines, charmas, & c., it includes dentist, conjurers, street-showmen, sword-swallowers, serpent-charmers, top-spinners, peddlers, & c. a mountebank. (注23)

### (7) 英語ブーム

外圧で始まった英語学修は、和蘭通詞を始めとして様々な人たちによる悪戦苦闘の結果、幕末から明治初期にかけて一気に花が咲き、英語ブームを迎える。それは開港景気にわく横浜の奇妙奇天烈な看板英語、芸者の都々逸英語、文学作品まで幅広く登場する。

#### ①横浜英語

Head Cutter

Pest Milk

We most cleanly and carefully wash our customers with cheap price as under.

Ladies eight shillings per hundred

Gentlemen seven shillings (注24)

“haircut”を“head cut”にしたら、首切りになってしまう。“best milk”が、“pest milk”では「有害な牛乳」になってしまい飲用できない。洗濯屋が、“Ladies eight shillings per hundred”「女性100人につき8シリング」してしまっただけでなく、商売にならないだろう。

## ②英語都々逸

広 き 狭 く  
ブロード (broad) 世界もぬしゆえわたしゃナルロウ (narrow) くらすよ  
この頃は

大きな 小さな  
ぬしのゲレート (great) 気をあんじるよ (small) おんなのこゝろでは

言 ば 高 低  
うつくしスピーキ (speak) もうやめさんせ恋にハイロウ (high low) あ  
るじやなし (注25)

いくら江戸の名残が強く残る明治時代でも、都々逸で英語ができるようになるのは無理である。

## ③文学作品

又貸しとは遁辞で、七<sup>ブレテキスト</sup>へ典<sup>セブン</sup>した歟、売<sup>ホウン</sup>したに相違ない。君は神経質<sup>セル</sup>だも  
んだから……自分で身体を不健<sup>わるく</sup>するヨ。よしんば頑固連や石部党が何といは  
うが<sup>ノウ</sup>か<sup>マ</sup>ま<sup>ク</sup>ふ<sup>ア</sup>もんか。時々<sup>ノ</sup>に<sup>マ</sup>酒も飲みサ、放蕩するもいゝぢやアないか。(坪  
内逍遙『当世書生氣質』)

明治時代の小説では、駐車場の文字の上には必ずといってよいほどに「ステーション」というルビが振ってあるのも時代の要請であろう。

## おわりに

幕命とは言え、和蘭通詞たちは英語を理解しなければ、「國家の裨益にならざる事を憫へ日夜尋思専精」(『諳厄利亜興学小荃凡例』)し、「暗夜を獨行するが如く一句片言分明なら」(同)ない英語と格闘した。彼らの奮闘努力が、明治期に精神的支柱として日本をリードした福沢諭吉、新渡戸稲造、新島襄、津田梅子、岡倉天心、鈴木大拙等の活躍のバックボーンとなったのは紛れもない

事実であろう。

- 注1 『資料日本英学史Ⅰ』 58頁～59頁  
注2 同 102頁  
注3 々  
注4 同 449頁  
注5 同 533頁  
注6 『英語襲来と日本人』 33頁  
注7 々  
注8 同 34頁  
注9 『日本回想記』 81頁、『』 54頁  
注10 『資料日本英学史Ⅰ』 453頁  
注11 同 454頁  
注12 同 455頁～459頁  
注13 同 535頁  
注14 同 537頁  
注15 同 461頁  
注16 同 462頁  
注17 同 535頁  
注18 同 553頁  
注19 『サムライと横文字』 122頁～123頁  
注20 『日本英学史考』 133頁  
注21 『資料日本英学史Ⅰ』 138頁  
注22 『「英和对訳袖珍辞書」の遍歴』 45頁  
注23 『日本の英学100年』 310頁～311頁  
注24 『英語襲来と日本人』 83頁～84頁  
注25 同 105頁

#### 【参考文献】

- ・『資料日本英学史Ⅰ 上英学ことはじめ』 川澄哲夫編 1988年 大修館書店
- ・『資料日本英学史Ⅰ 下文明開化』 川澄哲夫編 1988年 大修館書店
- ・『日本の英語辞書と編纂者』 早川 勇編 2006年 春風社
- ・『日本洋学史』 宮永 孝著 2004年 三修社
- ・『サムライと横文字』 惣郷正明著 1977年 プルタニカ出版

- ・『洋学』 沼田次郎著 平成8年 吉川弘文館
- ・『日本英学史考』 高梨健吉著 平成8年 東京法令出版
- ・『日本の英学100年 明治編』 日本の英学100年編集部編 1968年 研究社
- ・『ウェブスター辞書と明治の知識人』 早川 勇著 2007年 春風社
- ・『開国蟹文字文書論考』 町田俊昭著 2001年 小川図書
- ・『蘭和・英和辞書発達史』 永嶋大典著 1996年 ゆまに書房
- ・『五国語箋』 杉本つとむ編著 2000年 皓星社
- ・『英語事始』 日本英学史会編 1976年 ブルタニカ
- ・『フランス語事始』 富田 仁著 昭和58年 日本放送出版協会
- ・『按針と家康』 クラウス・モンク・プロム著、下宮忠雄訳、2006年 出帆新社
- ・『「英和对訳袖珍辞書」の遍歴』 堀 孝彦、遠藤智夫著 2000年 辞游社
- ・『マクドナルド「日本回想記」』 ウィリアム・ルイス、村上直次郎編、1993年 刀水書房
- ・『中濱万次郎』 中濱 博著 2008年 富山房インターナショナル
- ・『サムライと英語』 明石 康著 2004年 角川書店
- ・『英語襲来と日本人』 斎藤兆史著 2001年 講談社選書メチエ
- ・『江戸の英吉利熱』 タイモン・スクリーチ著、村山和裕訳 2006年 講談社選書メチエ